

株主の皆様へ



当社は、「感動創造」で社会に貢献することを経営の基本理念としております。イメージングにおけるあらゆる分野をグループの事業領域と位置づけ、夢のあるクリエイティブな製品やサービスを提供して企業価値の向上を図り、株主満足、顧客満足、従業員満足を実現してまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、ますます
ご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて第99期(平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)の事業報告書をご高覧いただくにあたりまして、
ご挨拶申し上げます。

グローバル競争の激化、デジタル・ネットワーク化に伴う急速な市場構造の変化に対応し競争に勝ち抜くために、当社では、平成12年に中期経営計画「SANプラン」を策定し、各事業のデジタル・ネットワーク化の促進、成長分野への経営資源の重点配分、コア技術の強化等事業ポートフォリオ経営を推進するとともに、他に先んじて経営機構の改革を進めてまいりました。

経営のキーワードを SPEED(スピード) ALLIANCE (提携) NETWORK(ネットワーク)としてこの3年間スピード経営を実践し、デジタル・ネットワーク関連商品の売上高も全体のおよそ7割を占めるほどまでに増加いたしました。経営機構改革も積極的に推進し、本年4月1日には分社化・持株会社制へと移行しました。さらに、提携の分野では本年1月ミノルタ株式会社と株式交換によって経営統合を行うことで合意し、本年8月の経営統合に向けて作業を進めてあります。

中期経営計画「SAN プラン」を着実に実行し、事業構造改革を進めてまいりました結果、当期のコニカグループの連結売上高は前期比3.6%増の5,590億円、営業利益は前期比44.7%増の428億円、経常利益は前期比30.7%増の324億円、当期純利益は前期比48.1%増の163億円となり、営業利益、経常利益および当期純利益とも過去最高を達成することができました。

さて、当社は明治6年の創業以来今年で130周年を迎えました。これも永年の株主の皆様、お客様のご支援の賜と深く感謝をしております。

当社の事業領域であるイメージング分野は、今後も成長が見込まれる大変有望な分野ですが、技術革新が進むなかで世界の競合相手は強大化し、上位企業と中・下位企業との格差が拡大しております。技術力、コスト競争力に加え、経営改革力、事業改革力のない企業は容赦なく淘汰されております。こういう時代のなかで、当社がさらに発展していくには当社の強みをより一層強化し、弱いところを補完する思い切った変革をする以外にはないと考えました。ミノルタ株式会社とは平成12年より情報機器事業の業務提携を進め、その成果も着実に表れてきました。この期間を通して両社の信頼も深まり、経営統合に発展させることにより両社の強みがさらに発揮できて大変強い競争力をを持った企業になると確信し、経営統合を決断いたしました。当社1に対してミノルタ株式会社0.621とす

る交換比率をもって株式交換を行い、経営統合することで合意し、本年 5 月 15 日に株式交換契約を締結いたしました。なお、それに付随して 1 単元の株式数を従来の 1,000 株から 500 株に引き下げる予定でございます。

これらにつきまして、本年 6 月の定時株主総会で株主の皆様のご承認をいただきましたので、8 月 5 日に株式交換を行い、10 月には両社がそれぞれ営んでいた事業を再編・統合いたします(5 ページ参照)。

コニカ株式会社は社名をコニカミノルタホールディングス株式会社へと変更し、持株会社としてグループを統括し、経営資源の最適配分、経営効率の向上、提携戦略の強化、大型新規事業の育成を進め、事業ポートフォリオ経営に基づく戦略的意意思決定を行ってまいります。

コーポレートガバナンスの強化も重要な経営の課題と認識し、経営の意思決定・監督と業務執行の機能分担を明確にして、それぞれの機能の強化を図ってまいりました。平成 14 年度より社外取締役制を導入しま

したが、この改革をさらに進め、かつ経営の透明性を一層高めるために社外取締役を従来の 2 名から 4 名へ増やし、取締役会のなかに、監査委員会、指名委員会、報酬委員会が構成されるいわゆる委員会等設置会社へ移行すべきと考え、本年 6 月の定時株主総会で株主の皆様のご承認をいただきました(6 ページ参照)。

こうした経営の大幅な改革を実行し、より強固な収益基盤を擁する企業グループを目指すことで企業価値を高めるとともに株主価値を高め、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

平成 15 年 6 月

代表執行役社長
岩居文雄